



主席研究員・代表取締役

清水 秀幸

未来に誇れる美しい街づくりを—— 多様な取り組みで地域貢献を果たす

東京への人口一極集中が加速し、一方で地方都市は少子高齢化や生産年齢人口減少が進行している。そうした状況を鑑み、将来を見据えた地方都市の再生、活性化に寄与すべく、様々な取り組みに尽力しているのが『さくら都市総合研究所』だ。建設会社での長年の経験を活かし、社の舵を切る清水社長と、社長の活躍を傍で支える奥様・治子さんにお話を伺った。

島田 はじめに、清水社長の歩みから。

清水 子ども時代は自然の中で走り回る健康的な“野生児”でしたね(笑)。取り立てて勉強などしないながらも『明治大学』に進学し、そこでは福祉活動やテニス三昧の日々を。まあ学生時代も悔いなく過ごせたと言えるでしょう。その点今の子どもたちは塾に宿題にと忙しく、可哀想だと思います。

島田 確かに、子どもはしっかり遊ぶことが大事ですね。大学卒業後はどういった道へ進まれたのですか。

清水 建設会社に就職し、地方の支社や海外営業所などの勤務で忙しく過ごしていました。家内とは会社で知り合い、同じテニス好きだったことや、負けん気が強く一所懸命頑張る姿勢に心惹かれ、結

婚することになったのです。

清水(治) 私が入社間もないころにちょっとミスをして、主人に指導されたことがあって……それで「絶対彼に認められる仕事をしよう!」と心に誓って励んでいたのを覚えています。

島田 まさに負けん気! 素敵ですね。ところで、社長が独立しようとお考えになったきっかけと言いますと?

清水 私は若いころからずっと、何か地域に貢献できることがしたい、との思いを持っていたんですよ。それで60歳を一つの節目と捉え、一念発起したわけです。無論、守るべき家庭もある中、不安もありましたが、人生一度きり。死に際に振り返って後悔しない生き様を貫きたい——そういう思いで独立に踏み切り、2013年にこの『さくら都市総合研究所』を設立して現在に至ります。

島田 こちらでは、主にどういったお仕事を手掛けられているのでしょうか。

清水 建設会社での勤務時代に培った知識や経験を活かし、都市計画、街づくり、土地活用、商業施設誘致、建設総合プロデュース、建設系営業業務コンサルティングなど、都市活性化に向けた幅広い取り組みを行っています。「これからの地

方都市をどういう方向に導いていくか」を常に模索し、行政とも審議員として参加・連携を図りながら、地域の発展につなげていくことを目指しています。

島田 夢が溢れる事業ですね。

清水 ありがとうございます。一つひとつ実績を積み重ね、それが地域社会の糧となっていけば嬉しいです。長野県も他の地方都市と同様に、人口減少に悩んでいる地域の一つ。ですから、観光事業などを通じて地域のPRをもっと積極的にを行い、若い世代が集まるような魅力ある街づくりを進めていかなければ、と意気込んでいるところです。

島田 最後になりましたが、社長を傍で支える奥様に一言お願いできますか。

清水 家庭や子どものことはいつも任せきりで、頭が上がり感謝しかありません。今後もよろしくお願いします。

(取材/2015年7月)



奥様の治子さんを交え、記念撮影

ゲスト

島田 陽子



株式会社 さくら都市総合研究所

長野県長野市大字南長野南県町 1001-3 ロワール丸ビル 301 号

TEL 026-217-2867

URL: <http://www.sakura-soken.co.jp>

「勤務時代は役員まで務められていたという清水社長。それだけに独立への一歩は、並大抵の覚悟で踏み出せるものではなかったはず。けれどもなお、『一度きりの人生を悔いなきものに』との美学を貫かれる社長の心意気に、胸を打たれました」